新潟日報
2011年(平成23年)8月2日(火曜日)

三条総局
〒955-0092
三条市須頃2の89
0256(33)0408
ファクス (33)3347

石巻からボランティア9人
復興支援の恩返しを

トラックから支援物資を運び出す石巻災害復興支援協議会のメンバーら=31日、三条市東本成寺の市総合福祉センター

三条へスコップ届ける

東日本大震災の被災地、宮城県石巻市のボランティアネットワーク「石巻災害復興支援協議会」が31日、スコップや軍手などボランティア活動に必要な道具をトラックに載せ、記録的な豪雨に見舞われた三条市に駆け付けた。震災からの復興の最中だが、「全国から寄せられた支援の恩返しがしたい」とメンバー9人が訪れた。

同協議会は石巻市を拠点に活動するボランティア団体の調整機関で、震災後に発足。他の被災地では初の活動となった。

この日の朝6時に、スコップや一輪車、水などをトラック3台に載せ、現地を出発。正午ごろ、三条市東本成寺の市総合福祉センターに到着した。同協議会の伊藤秀樹会長(48)は「水害は津波の被害と一緒なので、倉庫にあるものを全部持ってきた。石巻は生きるか死ぬかの状況は脱した。何か恩返しがしたかった」という。

一行は福祉センターのほか、同市笹岡の下田体育館のボランティアセンターに物資を運搬し、帰路に。何人かのメンバーは本県と同じく豪雨被害が大きかった福島県の支援に向かった。

石巻市では側溝の清掃やがれきの処分が終わり、被災した建物の解体が進んでいるという。伊藤会長は三条市の状況について、「畳を事前に上げたり、乗用車を避難させたりなど対応が早い。三条は前回の水害の経験が生きている。石巻でも経験を語り継いでいかないといけない」と話した。

県央工野球部50人
ブラシで清掃作業

三条

豪雨の被害を受けた三条市嵐南地区で31日、地元の県央工業高校野球部員約50人が、学校近くの住宅や事業所などの片付けを手伝った。

同校では嵐南地区に住む部員もおり練習の予定を変更し、この日朝から片付けの応援に駆け付けた。

同市四日町のプラスチック製品製造工場では、ユニホーム姿の部員たちがぬれた道具などを運び出して泥を洗い流した

片付けを手伝う県央工業高校の野球部員=31日、三条市四日町